

## 7. 昨年度課題への改善結果

昨年度の課題を踏まえ、本年度の研修で改善した点については、アンケート等から次のような結果が考えられる。

(1) 講演・講義	
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演は、各共催団体等からの推薦により、企業経営層の方に登壇頂き、各地域に密着したプログラムとした。また、より多面的な視点を得るため、講演者は男性・女性双方からとし、社内取締役・社外取締役の経験についても、全体バランスを考慮し調整した。</li> <li>・研修講師は、大学教授や各分野の専門家により、最新情報を盛り込んだ講義を実施した。地域特性や中小企業事例なども含めるよう工夫した。</li> <li>・講義テーマについての過去の学習経験を確認するほか、講師への質問を事前に受け付け、講師と共有することで、レベル感を共有し、受講者の理解度向上につなげた。</li> <li>・グループワークの時間を、昨年度よりも長く確保することで、議論の活発化、自主的な学びを図った。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演では、取締役会・経営会議、役員の役割等について語って頂き、実際の経営者の仕事についてイメージを持てるようにしたことは、受講者の意識の変化や不安の解消につながったと考えられる。</li> <li>・経営層の講演には、大企業・中小企業、東京・地元、男性・女性、社内・社外と様々な立場の方に登壇頂いたことで、自分の目指す方向を考えるヒントを得ることができた。また、失敗体験や苦労した点を紹介頂くことで、社員を大切する姿勢や、壁を乗り越える力・変革力の必要性を実感するものになった。なお、<u>地域の経営層の登壇には共催団体の協力が欠かせない</u>と考える。</li> <li>・講義では、世界や日本の動きだけでなく地元企業の事例や、受講者の約6割が中小企業勤務であることから、中小企業の視点も含めて紹介するなど、身近に感じるための工夫を行った。今後も、<u>地域特性を踏まえた視点は必要である</u>。</li> <li>・講義内容については、短時間でありながら高度で充実していることや、特に、<u>企業事例を活用した演習や、議論から新しいものを生み出すディスカッションが有効である</u>。役員としての対応力を高めていくためには、<u>想定外の事案に関する課題解決型の事例やケーススタディや、学んだ知識を自身の所属組織の課題に落とし込むようなワークを入れていくことが効果的である</u>と考えられる。</li> <li>・講師への質問を事前にアンケートに記入してもらい、講師と事前に共有したことは効果的であった。ただ、<u>回によっては、質問の数が多く、時間内で対応できないこともあり、工夫が必要</u>と考える。</li> <li>・ディスカッションの時間を、昨年度より長めに組み入れたことで、普段交流の少ない地元の企業や士業の経験を有する受講者による意見交換が積極的に行われており、プラス面が指摘されている。</li> </ul>

(2) ネットワーク構築	
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業経営層の講演後には、名刺交換の時間を設け、地域内での人脈構築の機会とした。</li> <li>・ 開催日時は、午後開催を入れることで、研修終了後のネットワーク構築を図りやすくした。</li> <li>・ ネットワーク交流会は、昨年度同様、第1回と第6回に組み入れるほか、中盤の第3回研修時にも設定した。</li> <li>・ 研修開始の早いタイミングで、自主交流会を促す声掛けを行った。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の時間帯が午後開催となったこと、ディスカッション時間を長くしたことから、交流の時間の確保はできた。また、講師との名刺交換について、休憩時間を昨年度よりも長くし、15分確保したことで、時間的な余裕ができ、適切であったと考える。</li> <li>・ 第3回研修での交流会は、時間的に短めの設定であったこともあり、出席者が少なかった。ただ、宮城では、第3回時点では、自主交流会や幹事役が決まっていなかったことから、今回の設定は効果があった。 一方、広島では、県が中心となって、第1回開催時に、第2回終了後の自主交流会の案内がされていたので、<u>第3回研修での交流会は、自主交流会に切り替えることを検討してもよかったと考えられる。</u></li> <li>・ ネットワーク構築には、自主的な交流会の開催有無が大きく影響することから、<u>早期の開催をサポートすることが必要</u>であろう。第1回開催前、もしくは、第1回開催時に、自主交流会の幹事協力者を数名募り、必要に応じて、共催団体と連携を取りながら交流会を実施することが、地域の女性ネットワーク構築につながっていくものと思われる。</li> <li>・ ネットワーク継続のためのフォローアップ研修開催へ期待する声もあり、<u>開催地域の共催団体からのサポートを期待したい。</u></li> </ul>

(3) 参考資料・参考書籍の有効活用	
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各講義に関連した参考書籍を紹介し、事前学習を促した。また、第1回開催前に全講義の参考書籍を案内するとともに、次回案内にて再度促した。</li> <li>・ 事前に必ず読んで頂きたい資料（書籍から抜粋、もしくは、簡単な概要レポートなど）を参考資料として紹介した。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考資料・参考書籍について、初回及び次回開催案内で事前学習を促してきたが、事前もしくは事後に「すべて読めた」とする割合は、参考資料で約3割、参考書籍で1割未満であった。<u>限られた講義時間での理解度を高めるためにも、より一層徹底すること重要</u>であろう。また、テーマによっては、<u>事前課題や演習との連動を検討することも一案かと思われる。</u></li> <li>・ 受講前に手軽に読めるものとして、参考資料（A4用紙5～10枚程度）を事前に配布したことは、受講者の事前学習に役に立ったと思われる。</li> </ul>

(4) アクションプラン	
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業勤務と士業では、業務形態が異なることから、士業向けには異なる項目を設定した。</li> <li>・ 初回にアクションプランについて説明するとともに、第5回に各自アクションプランを持参し、他者からヒントを得ることを目的に、グループ毎に共有した。第6回では、他グループや講師コメントから新たな視点や気づきを得ることを目的に、進捗確認を記載したアクションプランシートを持参し、グループで共有した後、グループ内から出てきた取組を全体共有（発表）した。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクションプランの作成と共有については、研修で学んだことを活かし、目標を具体化し、他者と共有することで学びあうことへの納得感は高いが、<u>全体での発表については、馴染まないというコメントも複数あったことから、若干の改善について検討も必要であろう。</u></li> <li>・ 具体性や精度の低いアクションプランもあったため、プログラムにおけるアクションプランの優先順位を上げて時間を確保し、アクションプランの確認とフィードバックの仕組みを検討することも一案かと思われる。</li> </ul>